



「教える」から「学ぶ」への変革

教育の新しい潮流を動かす、学習理論の進化



私たちの知る「授業」が、変わりつつある



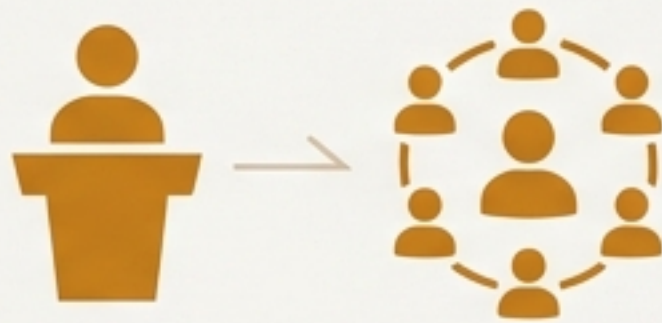
新学習指導要領

教育目標の根本的な転換。小学校は2020年度、中学校は2021年度、高校は2022年度から順次実施。



主体的・対話的で深い学び

新しい教育のモットーとして文部科学省が推進。



教師の役割の変化

知識を伝達する講義者から、学習を支援するファシリテーターへ。



GIGAスクール構想

1人1台端末が新しい学習スタイルを可能にする。

なぜ今、この変革が 起きているのか？

この変革の背景には、100年以上にわたる「学び」に対する考え方の壮大な進化があります。その歴史を紐解き、今日の教室で起きていることの「なぜ」を探ります。



学習観の変遷を辿る：4つの主要な理論



行動主義

Behaviorism



認知主義

Cognitivism



構成主義

Constructivism

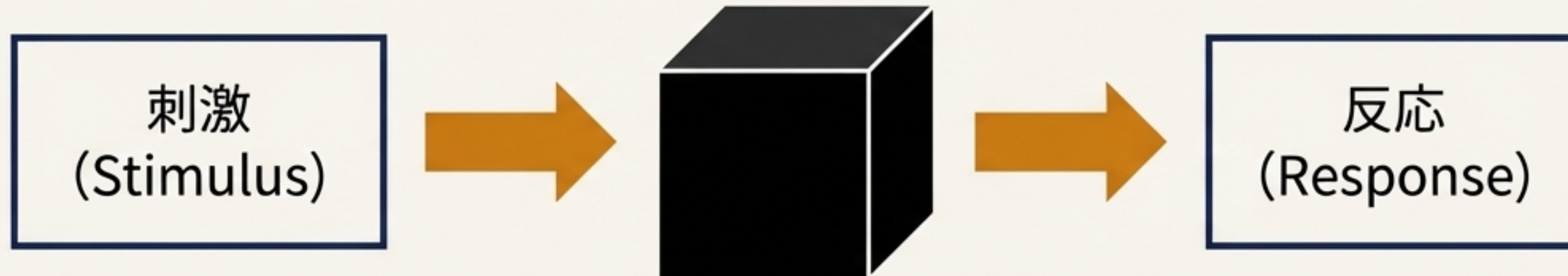


社会的構成主義

Social Constructivism

① 行動主義：学習とは「客観的に測定できる行動の変化」

心や思考プロセスは科学的に扱えない「ブラックボックス」と見なす。
学習は、刺激とそれに対する反応の関係性によって定義される。



Key Figure: B.F. スキナー (B.F. Skinner)
Key Concept: オペラント条件づけ。報酬や罰によって、自発的な行動が促される。

「わかったなら、やってみせなさい」という考え方が、この理論の本質を表す。

② 認知主義：ブラックボックスを開き、頭の中を探る

行動主義が無視した、人間の内的な精神プロセス（思考、記憶、問題解決）に焦点を当てる。学習は「頭の中での情報処理」と捉える。



Key Figure: ピアジェ (J. Piaget)

Key Concepts:

- シェマ (Schema): 外部の事象を取り入れるための、既存の心的構造。
- 同化 (Assimilation): 既存のシェマで新しい情報を受け入れること。
- 調節 (Accommodation): 新しい情報に合わせてシェマを修正・獲得すること。

決定的な転換点：知識の「受け手」から「創り手」へ

行動主義や初期の認知主義が学習者を比較的受動的な存在と見ていたのに対し、構成主義は学習者を能動的な存在と捉えます。この視点の転換が、現代教育の核心です。



旧来の学習観：学習者＝知識を流し込まれる器（受動的）



新しい学習観：学習者＝自ら知識を構築する存在（能動的）

③ 構成主義：学習とは「知識を主体的に構築するプロセス」

ピアジェの理論に基づき、学習者は自らが持つ知識構造（スキーマ）を通して外界と相互作用し、主体的に自分自身の理解を組み立てていく。学習は個人の内的な創造活動である。



「学習は個人の活動であり、学習の効果は個人の能力として評価される」という考え方。

④ 社会的構成主義：学習とは「他者との協働による知識創造」

Core Idea：

学習は本質的に社会的な活動である。
知識は、他者との対話や協働を通じて共に構築される。



ヴィゴツキーの言葉：
「協働の中では、学習者は自分一人でする作業のときよりも強力になり、有能になる。」

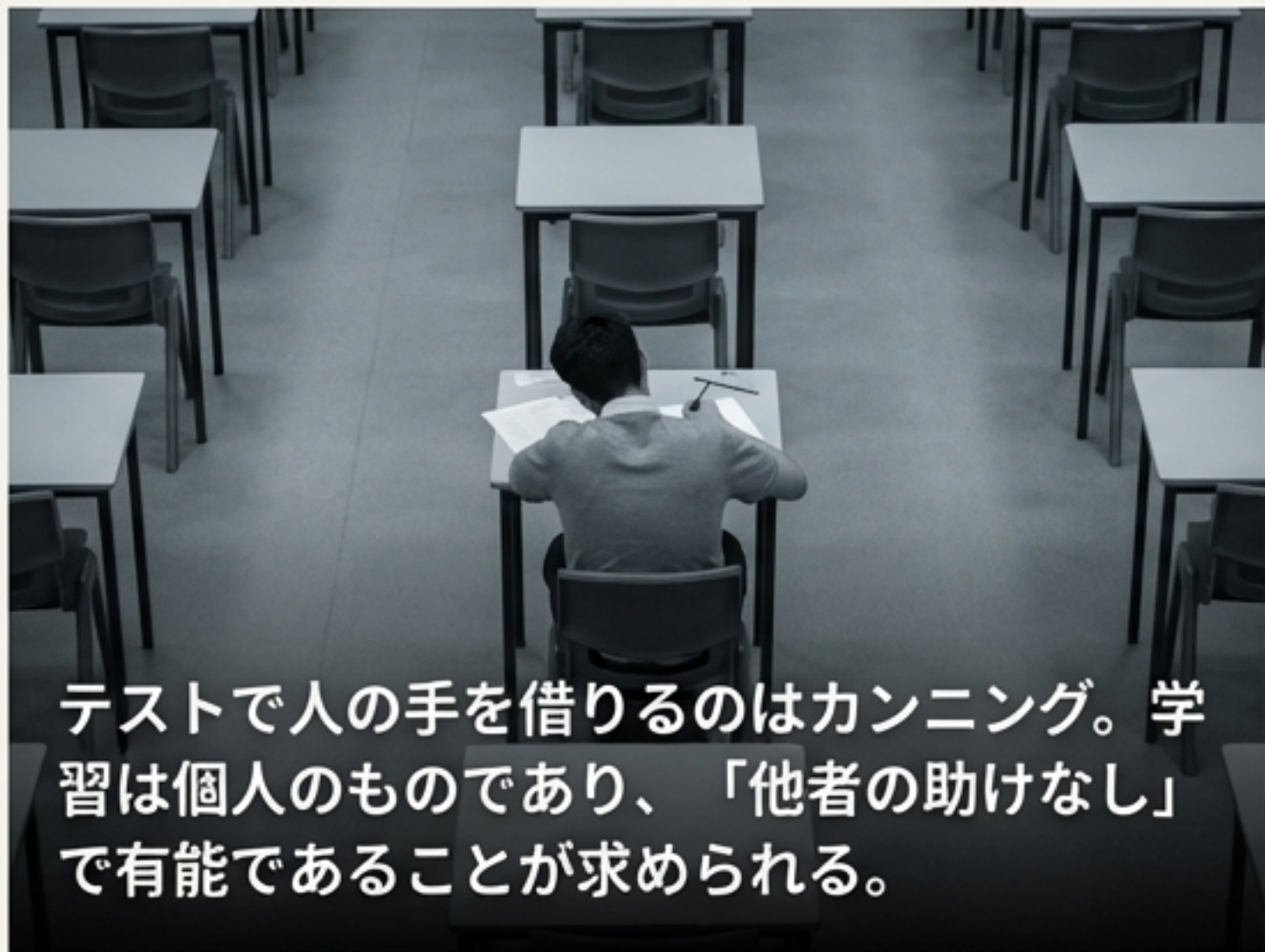
Key Concept： **発達の最近接領域** (Zone of Proximal Development)。教師や仲間との協働によって、

Key Figure： 一人では到達できないレベルの課題を解決できるようになる。

ヴィゴツキー (L.S. Vygotsky)

「個」で学ぶ学校、 「協働」で動く社会

学校 (School)



テストで人の手を借りるのはカンニング。学習は個人のものであり、「他者の助けなし」で有能であることが求められる。

Individual learning model, focusing on isolated performance.

社会 (Society)



ある研究によれば、仕事の90%以上は協働で行われる。知恵を借り、互いを補い合いながら目標を達成する。

Collaborative work model, leveraging shared knowledge.

社会的構成主義は、この学校と実社会のギャップを埋める学習観である。

学習理論は、どのように現代の授業に活かされているか

新旧の学習理論は、それぞれが特定の学習方法の基礎となっています。教育の目的や状況に応じて、これらのアプローチが柔軟に適用されています。

行動主義



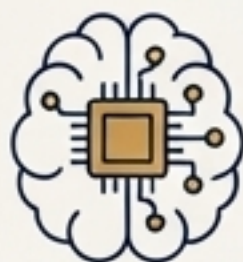
行動主義



ドリル学習

e-Learningの基礎

認知主義



認知主義



問題解決学習

構成主義



構成主義



発見学習

探究学習

社会的構成主義



社会的構成主義



協働学習

ジグソー学習

GIGAスクール構想：テクノロジーが「社会的構成主義」を加速する

1人1台端末は、社会的構成主義的な学びを実現するための最適なツールである。



共同での情報収集

生徒たちが同時にインターネットで情報を集め、共有できる。



成果物の共同編集

プレゼンテーションやレポートを、グループでリアルタイムに作成・編集できる。

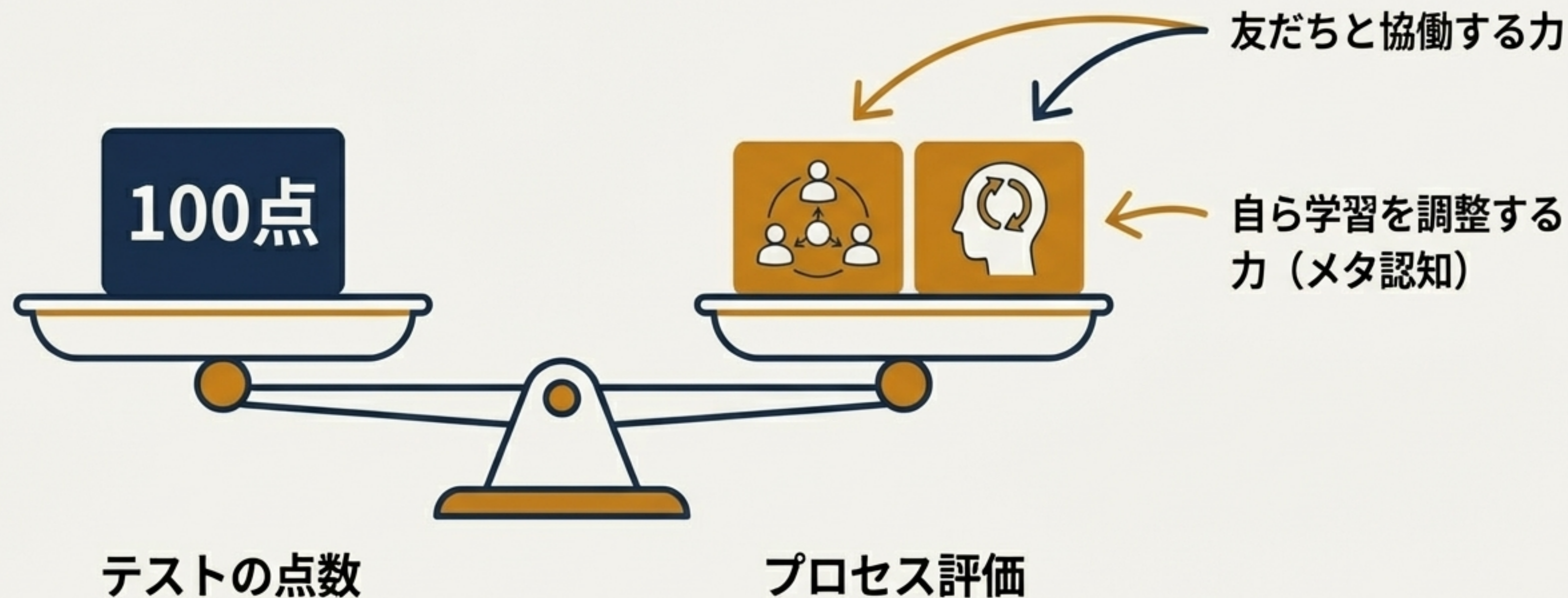


円滑な意見交換

デジタルツールを使って、対面だけでなくオンラインでも活発な議論が可能になる。

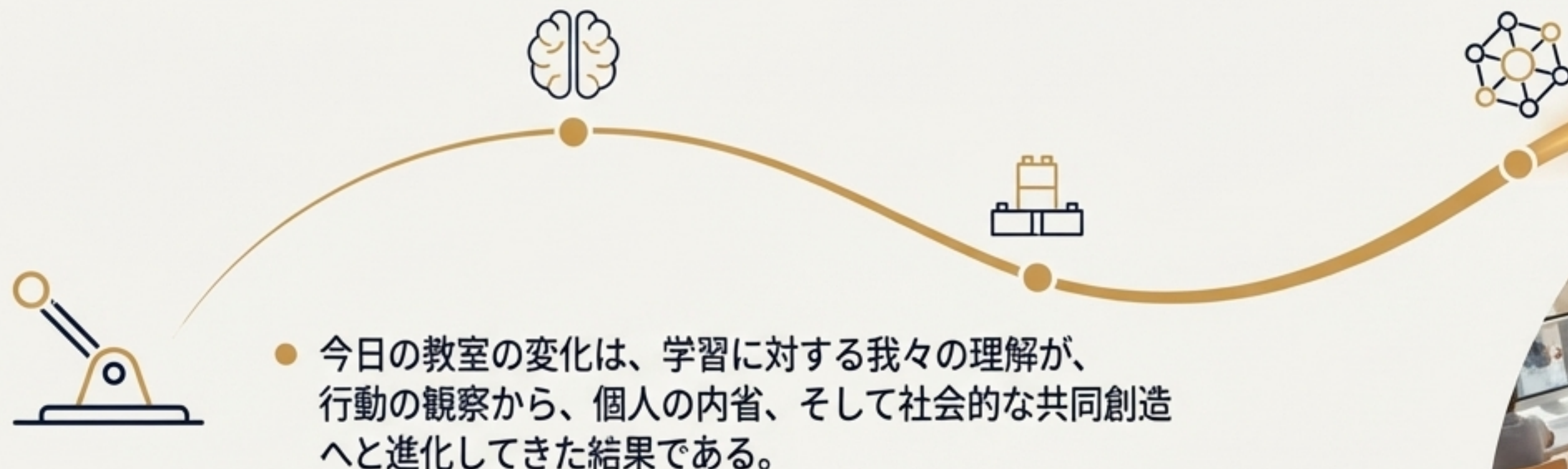
新しい学力観：「できる」の再定義

評価は、単なるテストの点数から、学習プロセス全体へと広がっている。



まとめ：「教える」から「学ぶ」への、不可逆的なシフト

今日の教室の変化は、学習に対する我々の理解が、行動の観察から、個人の内省、そして社会的な共同創造へと進化してきた結果である。



- 私たちは、学習者を知識を受け取るだけの受動的な存在から、自ら知識を構築する能動的な存在へと見るようになった。
- この変革のゴールは、複雑で協働的な未来を生き抜くための、柔軟でダイナミックな学習者を育成することである。



参考文献と、次なる問い

参考文献

岐阜女子大学編：教材開発の基礎としてのインストラクショナルデザイン

岐阜女子大学編:幼児教育コーディネータ概論

次なる問い

**あなたの教育現場では、
どの学習観が実践されて
いますか？**

教材開発の基礎としての
インストラクショナル
デザイン



幼児教育コーディネ
ータ概論

